

## ヤマユリ（ユリ科）

### 観察のポイント

高さ1～1.5メートルになる日本特産のゆりです。種をまいてから5、6年でようやく花を咲かせるようになります。自然の家のヤマユリも、毎年種をまき増やしてきました。花は大きく15～20センチもあり、白い花の内側には赤い小さな点がたくさんあります。とてもよい香りがしますので匂いをかいでみよう！

## コオニユリ（ユリ科）

### 観察のポイント

おしべの先端のヤクが、ちょっと触れただけでくると簡単に回ってしまいます。これは、花粉の付きにくいチョウの体にヤクがびたりとくっついて、たくさんの花粉が付くようにするしくみです。いっぽう、めしべの先端は粘液で湿っていて、運ばれてきた花粉をしっかりと受け止めます。キアゲハが花粉を運びます。

## ヤマホタルブクロ（キキョウ科）

### 観察のポイント

山地の日当たりの良い草地や林道ぞいに見られます。みんなの住む川崎にもホタルブクロの花が咲きますが、自然の家のそれはヤマホタルブクロと言って、少し標高の高いところに見られます。ヤマホタルブクロはガクのつけ根がふっくらとふくらんでいきます。ホタルブクロは、その部分がめくれ上がっています。

## ウツボグサ（シソ科）

### 観察のポイント

野山の日当たりのよい場所にはえませんが、半日陰の林の中にもよく育ちます。うつぼとは矢を入れて持ち歩くための道具です。花の穂の形が外側に毛皮を張ったうつぼによく似ているというのでこの名がつけました。この穂は、枯れると茶色になってかさかさになります。これを夏枯草(カコソウ)と呼び、漢方では利尿薬として使われます。

## エゾカワラナデシコ（ナデシコ科）

### 観察のポイント

園芸種のカーネーションと似ていますが、仲間は近いけれど別の種類です。八ヶ岳で見られるのはほとんどがエゾカワラナデシコです。カワラナデシコは八ヶ岳より暖かいところにさきます。エゾカワラナデシコは少しガクが短く、花びらの切れ込みが少ないです。

## キキョウ（キキョウ科）

### 観察のポイント

いくつかの花の中心を観察してみましょう。花によってめしべやおしべの形が違うことに気づきます。おしべが花粉を出す時期と、めしべが花粉を受け取る時期をずらすことによって、自分の花粉で受粉しないよう工夫をしているのです。ハナバチが花粉を運びます。

## オカトラノオ（サクラソウ科）

### 観察のポイント

野山の日当たりのよい場所にはえませんが、自然の家でも群落を作って咲いています。よく見るとみんな同じ方向を向いて咲いているのがわかります。白い花穂がトラの尾に似ていることからこの名がつけました。

## オオバギボウシ（ユリ科）

### 観察のポイント

山地の草原や木陰にはえませんが、溝のある茎に卵形の葉っぱがついています。60～90センチの花茎にうす紫色の下向きの花をつけます。春の芽吹きはウルイという名前で山菜として利用されます。下向きのこの花は、どんな虫が花粉を運んでいるのか観察してみよう。



エゾカワラナデシコ  
エゾカワラナデシコ (ナデシコ科)



ヤマユリ  
ヤマユリ (ユリ科)



キキョウ  
キキョウ (キキョウ科)



コオニユリ  
コオニユリ (ユリ科)



オカトラノオ  
オカトラノオ (サクラソウ科)



ヤマホタルブクロ  
ヤマホタルブクロ (キキョウ科)



オオバギボウシ  
オオバギボウシ (ユリ科)



ウツボグサ  
ウツボグサ (シソ科)